

与謝野町自分ごと化会議
改善提案シート(議事録含む) 取りまとめ結果

■課題・提案の分類結果

1 交通手段の現状と課題

- ① 高齢者が免許を返納したあとの移動手段の確保(タクシーが利用しづらい)
- ② 公共の交通機関の維持(今後減少が見込まれる)
- ③ 公共交通の利用者が少ない
- ④ バスの本数が少ない
- ⑤ 財政的課題の改善
- ⑥ 現状の交通手段を守るための取組みが必要
- ⑦ 高齢者や子供の送迎に割かれる時間が多い

2 地域コミュニティと交通

- ① 免許を持たない人の移動手段の確保(地域コミュニティにおいて)
- ② よさの乗合交通の利用促進
- ③ 地域のボランティア輸送の充実
- ④ 公共交通がなくなる不安がある(新たな地域交通の推進)
- ⑤ 共助における今後の自治体の役割
- ⑥ ボランティア輸送の運転手への負担軽減

3 利用者のニーズと課題

- ① バスの混雑
- ② バス・電車の利用方法を知らない人が多い
- ③ 高校生の移動手段の確保(帰りの交通、バスやの電車がない時間)
- ④ スクールバスや福祉バス、病院の送迎バスなど稼働していない時間が多い
- ⑤ 乗合交通の仕組みが分かりにくい
- ⑥ 目的地まで行けるということが明確にわかるようなルート案内
- ⑦ 利用目的の把握(通学、通勤、銀行、買い物、通院)

■分類別改善提案シートへの記入内容

1 交通手段の現状と課題

課題		<ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者が免許を返納したあとの移動手段の確保(タクシーが利用しづらい) ② 公共の交通機関の維持(今後減少が見込まれる) ③ 公共交通の利用者が少ない ④ バスの本数が少ない ⑤ 財政的課題の改善 ⑥ 現状の交通手段を守るための取組みが必要 ⑦ 高齢者や子供の送迎に割かれる時間が多い
改善提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 次の利用まで待ち時間を考えて行動する ● 公共ライドシェアを利用する ● できるだけ公共の交通機関を利用する ● 現状を知り、改善に向けて自主的に取り組む ● 他の人の意見を聞く ● 自家用車の使用を控えるなど認識を変える ● 乗合交通など親、友達に教える
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 日帰り遠足(長寿会、遠足)などに利用する ● 公共ライドシェアの確立する ● 地域でも多く利用する ● 実態、課題をみんなで学習する ● 学習会を実施し改善に向けて地域で取り組む ● まずは地区で考える ● 地区で広報を行う ● アプリの使い方の説明会を実施する
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共ライドシェアの推進する ● イベント等を含め公共の交通機関の利用を推進する ● 住民に周知する ● 学習会の実施や改善に向けての取組みを推進するため協力する ● アプリを入れたらすぐ説明に入れるようにする
	その他の主体の取組み	

【自由記載】

- 京丹後市の民間の病院ではアプリで京丹後市内は無料の送迎をしているので(仕組みを)与謝野町としても研究するべき
- 免許返納後の高齢者の希望は何なのか。今まで通り自分の自由な時間に行きたい場所に移動できることなのではないか。タクシー、ボランティア輸送、乗合タクシー、ライドシェア、公共バス、丹鉄などそれぞれの利用の仕方があると思うが、高齢者が簡単に利用できる方法を考えていく必要があると思う。※高校生の通学問題も
- 丹後鉄道がなくなれば学校がなくなった地域のように衰退することになる心配する

2 地域コミュニティと交通

課題		<ul style="list-style-type: none"> ① 免許を持たない人の移動手段の確保(地域コミュニティにおいて) ② よさの乗合交通の利用促進 ③ 地域のボランティア輸送の充実 ④ 公共交通がなくなる不安がある(新たな地域交通の推進) ⑤ 共助における今後の自治体の役割 ⑥ ボランティア輸送の運転手への負担軽減
改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアとして運転手に登録する ● 隣組、町内会を中心に取り組む ● 元気な老人は地域のために動く ● できるだけ乗合交通を利用する ● できるだけ自転車、シニアカー等で行く ● 自分で行動できることをする ● ボランティアなど、公共交通の手助けができるように努力する ● どこまで行政がやるか、どこまで自分たちがやるのかということを考える ● 誰も自動車運転できなくなる時を考えて、利用してみる
	地域の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 隣組の中で運転手の登録を推奨する ● 地域のお祭りのパワーを他の事業に引き出す ● 公民館単位で実施する ● お互い利用者が声を掛け合って使う ● 自治体の前向きな取組みに対して努力する ● 近所関係をもっと近い存在にする ● 地域での支え合いが必要 ● 交通をどう地域で支えていくか、共助を大事にする
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 足を確保できない人の需要(行先、頻度、運転を頼める人の有無)をアンケートで把握する ● よさの乗合交通についての説明を徹底する ● ボランティア輸送の保険等を徹底する ● 保険があるレンタカーを自治体で用意する ● ボランティアの呼びかけを徹底する ● ボランティア輸送の安心・安全を担保していく(保険、運転手への安全講習)
	その他の 主体の 取り組み	

【自由記載】

- 公共ライドシェア(現況、加悦地区活用)の充実を図る
- 利用目的を充実した内容にできる方法を考える

3 利用者のニーズと課題

課題		<ul style="list-style-type: none"> ① バスの混雑 ② バス・電車の利用方法を知らない人が多い ③ 高校生の移動手段の確保(帰りの交通、通常以外バス、電車がない時間) ④ スクールバスや福祉バス、病院の送迎バスなど稼働していない時間が多い ⑤ 乗合交通の仕組みが分かりにくい ⑥ 目的地まで行けるということが明確にわかるようなルート案内 ⑦ 利用目的の把握(通学、通勤、銀行、買い物、通院)
改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用する ● 電車やバスの使い分ける ● 知らない人がいたら助ける ● 10歳ころまで親と一緒に利用する ● 保護者に迎えを頼む ● 仕事の帰りに乗せて帰る。 ● 休日のボランティア登録(働き盛りの人) ● 情報は自分で取ってくる
	地域の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用する ● できるだけ混雑の時間をさける ● ポスターを配布する ● 会社で登録を促進する
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアに頼らずシルバー人材センターと協議して活用する ● バスの便数を増やす ● 学校行事で説明する ● バスのダイヤを改正する ● 会社を募る ● 鉄道への乗り継ぎなどの情報もアプリへ載せていく ● アプリだけでなく、電話での予約も可能にし多くの人の利用を促進する。 ● 一般住民も利用できる「混乗」制度を導入する
	その他の 主体の 取り組み	

【自由記載】